

はじめに

昨年度に続き「すくわくプログラム推進事業」に参加しました。「すくわくプログラム」とは「各園の環境や強みを生かしながら、「光」「音」「植物」など各園が設定するテーマに従って、乳幼児の興味関心に応じた探究活動を実践し、非認知能力の向上をなど、幼児教育・保育の充実を図る幼稚園・保育所などを支援する」というもので“すべての乳幼児の「伸びる・育つ（すくすく）」と「好奇心・探求心（わくわく）」を応援する幼保共通のプログラム”となっています。

今年度は「音」（4歳児）「自然」（5歳児）のテーマを設定しました。

☆テーマ 「音」 対象 4 歳児

テーマの設定理由

歌やダンスが好きな子どもたちなので、「音」という切り口から興味関心を深めていきたいという思いと、保護者の音楽家の方のご協力も得られることとなり、このテーマに設定した。

☆活動内容

活動1 音楽会で楽器の音をきいてみる

音楽家の保護者の方のご協力のもと、音楽会を開き、キーボード、コントラバス、パーカッションの演奏を聴いたり、実際に演奏会に使った楽器に触れてみたりする。

活動2 園にある楽器を触ったり鳴らしたりして好きな音を見つける

園にあるマラカス、タンバリン、鈴、トライアングル、カスタネット、木琴、鉄琴、オーシャンドラムといった楽器を用意し、用意した楽器に順番に触れることができるように2グループに分かれて好きな楽器に触れる。最後にそれぞれ好きな楽器を一つ選んで、どんな音が気に入ったのか、どんなところが気に入ったかを発表し、好きな楽器を『さんぽ』のピアノ伴奏に合わせて演奏した。



地下ホールにて
音楽会に参加

園にある楽器に触れて
それぞれ好きな音を見つける



活動3 創作楽器の演奏会で創作楽器に触れる

創作楽器の演奏家による音楽会を地下ホールにて開き、参加する。空き缶やペットボトル等、身近にあるものでできた楽器の音に触れ、演奏を聴いた後は、実際にいろいろな創作楽器を触って音を鳴らしてみる体験をする。



様々な創作楽器の演奏を聴いたり、一緒に創作楽器のひとつの空き箱オーシャンドラムを演奏したりする

ペットボトルでできた創作楽器の音を鳴らしてみているところ



活動4 創作楽器をつくる

創作楽器の音楽会后、身の回りにあるもので楽器をつくってみようということで、それぞれミルク缶の太鼓を一つと、前回創作楽器の音楽会で演奏をしてくれた方の創作楽器のつくりかたの本をみながら、それぞれ作りたい楽器の一つを選び、創作楽器づくりをした。楽器の装飾がメインとなったが、それぞれ楽器が完成するとどうやったら音が鳴るかを考えながら、音を鳴らしていた。



空き箱のオーシャンドラムづくりでビーズなど中に入れるものを選んでいているところ

ミルク缶の太鼓の周りの模様描き

- ミルク缶の太鼓 →
- 左下：ペットフォン(木琴のような打楽器)
- 中央左：空き箱のオーシャンドラム →
- 中央右：鈴のようなぶら下げ楽器
- 右下：空き缶オカリナ



活動5 自分で作った手作り楽器で演奏に参加する

初回(活動1)に演奏をしてくれたキーボード、コントラバス、パーカッションの方たちの演奏に合わせて、活動5でそれぞれつくった楽器を演奏した。『線路はつづくよ』などの曲中で合図に合わせて楽器を鳴らす。最後はそれぞれ演奏したい楽器を持って『勇気100%』に合わせて楽器を演奏した。合図に合わせて演奏することもできたが、合図が無くても曲に合わせて思い思いに演奏することもできていた。

それぞれ自分でつくった楽器を
キーボード、コントラバス、パーカ
ッションの演奏する曲に合わせて
鳴らしているしているところ



まとめ

子どもたちの活動の振り返りでは、触った楽器の音を言葉にする子が多く、音を聞くだけではなく、実際に楽器に触れて体験することによって印象に残ることを感じた。楽器に触れる中で同じ楽器でも叩くものによって音が違うことに気づく姿もあり、体験することの大切さがわかった。

また、音楽会の中で様々な音を聴く中で「〇〇の音みたい」と言ってイメージを膨らませている姿もあり、中には同じ音でもそれぞれにイメージするものは違うものもあり、それぞれ音から自由にイメージを膨らませることができるということも発見だった。

今回、合奏のように曲に合わせての演奏することはほぼ初めてだったが、ただ楽器の音を鳴らすのではなく、それぞれがイメージを持って思い思いのタイミングで楽器を鳴らす様子も印象に残り、音から自由に表現する楽しさを味わえたように思う。

☆テーマ 「自然」

対象 5 歳児

テーマの設定理由

日々の保育で園外活動を取り入れている。様々な公園へ行き自然に触れる機会も多く、子どもたちも自然物で遊んだり観察したりする機会が多い。そして当園の特徴の一つでもある、渋谷にない自然を楽しみたいと5歳児が夏のキャンプ、冬の菅平への卒園旅行に行っていることから、今年はその自然ならではの「あそび」に焦点を当てて探求したいとテーマに決めた。

☆活動内容

活動1 秋川キャンプ

テーマ「自然」ということで7月23日～25日であきる野市にあるキャンプ場に行きました。今年「あそびの探究」を中心に主に川遊びでの活動を体験してきました。



川流れを体験

いろいろな流れ方を
楽しんでいる子ども
たちの様子



川の中の生き物を探
している子どもたち
魚、虫など探すこと
もたちの目は真剣



3日間続けて川遊びをする中で川流れでもひとりずつ流れる遊びから数人で連なって遊んでみたり、生き物探しも川辺のあちこちに散らばりそれぞれに真剣な目で水の中をのぞいていました。本流から分かれて水たまりゾーンがありオタマジャクシをつかまえたり川の中の魚を狙ったりそれぞれ楽しんでいました。また、かわらではハート形の石を見つけたことから面白い形の石を探したりする子どもたちもいました。

活動2 キャンプ後活動

キャンプ後の活動は本園と Hills の2グループに分かれて行った。キャンプで行った遊びの話を中心に楽しかったことをそれぞれ絵にして表してみた。描きながら思い出して職員と言葉にしながら表現している子や一人集中して描いている子等様々だった。

活動3 菅平旅行への事前活動

昨年の菅平旅行の写真を見せながらどんなことをしたいかを話し合う。雪遊びに関しては昨年降った雪の事を思い出して雪だるまを作ったなどと自分の経験を話す子もいた。たくさんの雪とイメージがつきにくいのか、写真にあるようなそりあそび、かまくら作りをしてみたいという子が多かった。その他 氷づくり、アイスづくり、雪の観察（雪のかたちをみてみよう）、とても寒いところで行うシャボン玉はどうなるか（これは職員がしたいこと）などしてみようなど、ここ（笹塚）ではできない遊びや実験を沢山してこようと話し合った。

活動4 菅平旅行での雪遊び

旅行は2月3日～5日まで2泊3日で行った。昨年と違って気温が高く寒さをそれほど感じずに遊ぶことが出来た。

《遊びや実験・観察したこと》

◎氷づくり…一日目に丸形、四角型のプラスチック容器から好きな容器をそれぞれ選んでもらい、水と好きなビーズを容器の中に入れて蓋を閉め、雪の中に埋めた。3日目の朝に埋めた氷がどうなったか掘り起こしてみる。氷になった容器もあったが、氷になりきれていない容器もあり、「なんでだろう」と不思議がる声や、完成した氷をみて「きれい」と嬉しそうに笑顔を見せる姿があった。



◎スコープで雪の結晶をみる…気温が高かったこと、雪が降っていないこともあり、雪をスコープでのぞいてみたが、雪の結晶はうまくみるができなかった。「雪の結晶見たい」という声もあったので日にちを変えて挑戦してみたが、見るができずに残念そうだった。

◎雪遊び…雪を集めてつくった雪山の傾斜からそりやスノーチューブですべる、雪をシャベルで掘り進めて大きな穴を掘る、雪に埋もれるようにして寝転がってみる、雪玉を作る道具で雪玉をたくさんつくる、かまくらの中に入ってみる、雪の中に物を埋めてみるなど事前に聞いた雪の中でやってみたいことはやることができた。シャボン玉も飛ばしてみたが、気温が高めだったこともあり、特に雪以外の環境でシャボン玉をやった時と変化はなかった。雪山の傾斜をそりやスノーチューブですべってみる経験は雪がたくさんないとできないことということもあってか繰り返し遊ぶ子が多く、一人ですべってみたり、二人ですべってみたり、職員と一緒にすべってみたりしていた。何度かすべる中で「後ろ（に座る方が）こわいよ」と言っていたり、スノーチューブでは回転するように調整してすべっていたり、すべることによってわかったことも多かった様子だった。

◎アイスクリームづくり…2日目に行った。子どもたちの前で牛乳、砂糖といった材料をペットボトルの中に入れ、部屋でアイスクリームの材料を用意した。2～3名のグループに分かれて、ビニール袋に雪

を詰め、中に材料の入ったペットボトルを入れて、そのビニール袋をガムテープで巻いてボール状にし、雪の上で転がす作業をする。15～20分転がすうちに、どうやったらうまく転がるか工夫する姿がみられ、そりすべりで遊んだ雪山の傾斜の上にボール状のビニール袋を運んで転がそうとする姿が多かった。完成したアイスクリームはその日の夜のお楽しみ会で食べた。満足そうに味わって食べている子が多かった。



活動5 旅行の事後活動

事後活動は本園と Hills で分かれて行ないました。記憶の新しいうちに旅行の翌週に行ない楽しかった遊びを絵に表現してみました。それぞれかまくらやそりあそびなどいくつもかきこむ子どもが多くいてたくさんの雪遊びを体験できたことが感じられました。

【作品】



まとめ

今年は暖かく東京では経験できない寒さを感じられず、雪の結晶や氷作りなど思ったようにできないことがありましたが、それもなぜ？と子どもの中に「？」が生まれ、つぎの何かの探究につながればいいと思いました。それでもたくさんの雪での遊びの中でどうしたらいいかな、こうしたら楽しい、など工夫やアイデアを出し合っで楽しむ子どもたちがいて、どのように関わりながら子どもたちの探究心を満たしてあげられるか、どのような環境を揃えていくといいかななどの視点で考えていくことが大切だと改めて感じた。